

科目名	人体の仕組みと働き	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年 1学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	廣瀬純成	資格	医師	実務経験	有・無	時間	21 / 106時間
担当者	高山雄次	資格	医師	実務経験	有・無	時間	23 / 106時間
担当者	臼谷佐和子	資格	医師	実務経験	有・無	時間	31 / 106時間
担当者	宮本章仁	資格	医師	実務経験	有・無	時間	31 / 106時間
<p>授業の目的・ねらい 人体の構造と機能について、生活行動の観点から理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の形態や構造、各部の機能について、細胞からはじまり各器官系までが理解できる。 2. 対象の身体の内面で生じている異常の意味を科学的に理解し、対象が示す症状や状態が何にどのように由来するのかを、正確に見る基礎を身につけることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><廣瀬純成></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～4. 第1章 人体の構成 5.～7. 第2章 細胞から見た人体 8.～10. 第10章 運動器 A～H 11. 筆記試験・まとめ <p><高山雄次></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～5. 第4章 循環系 6.～9. 第5章 血液系 10.～11. 第10章 運動器 I 12. 筆記試験・まとめ <p><宮本章仁></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～5. 第3章 呼吸系 6.～10. 第6章 消化・呼吸系 11.～15. 第8章 腎尿路系 16. 筆記試験・まとめ <p><臼谷佐和子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～5. 第7章 内分泌系 6.～9. 第9章 生殖系と人体の発生 10.～12. 第11章 感覚系 13.～15. 第12章 神経系 16. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書 医学書院 新看護学1 専門基礎[1] 人体のしくみとはたらき 2020</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	食生活と栄養	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	専門基礎科目		講義			1年 1学期	
担当者	青野真紀子	資格	管理栄養士	実務経験	有・無	時間	35時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>健康生活と栄養、栄養と疾病の関係及び食事療法の基礎を理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間が健康な生活を送るために重要な食生活・栄養について、疾病との関連性に着目できる。 2. わが国の食生活の変遷や栄養状態の現状を知り、食生活と栄養における看護の役割を理解できる。 3. 人間が生きるために必要な栄養素について、その種類とはたらきが理解できる。 4. 食物の摂取、消化、吸収、および排便のために必要な消化器系の機能について、栄養素との関連に注目して学び、エネルギー代謝過程が理解できる。 5. 病院食、栄養食事療法、特殊栄養法について、各疾患における原則と実際が理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 第1章 食生活・栄養と看護 2. } 3. } 4. } 第2章 栄養素の種類とはたらき 5. } 6. } 7. } 8. } 第3章 栄養素の消化・吸収・代謝 9. } 10. } 第4章 エネルギーの摂取と消費 11. } 12. } 第5章 病院食 13. } 14. } 第6章 栄養食事療法 15. } 16. 第7章 特殊栄養法 17. 第8章 日本人の食事摂取基準 18. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>医学書院 新看護学3 専門基礎[3] 食生活と栄養 2020 改訂</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	薬物と看護	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年 1・2学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	藤本嘉裕	資格	薬剤師	実務経験	有・無	時間	35時間
<p>授業の目的・ねらい 薬物の特徴および人体への影響、薬物の取扱い方について理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物とはなにか、薬物の特性や体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）が理解できる。 2. 体内に入った薬物は、各臓器でどのように変化し、薬効としてどのような影響を及ぼすか、薬物作用のメカニズム、薬物間の相互作用、有害作用などについて理解できる。 3. 医薬品情報の種類と必要性を理解し、准看護師として薬物に対し興味関心を持つことができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 薬物に関する基礎知識 2. 第2章 抗感染症薬 3. 第3章 抗悪性腫瘍薬・免疫抑制薬 4. 第4章 末梢神経系に作用する薬物 5. 第5章 中枢神経系に作用する薬物 6. 第6章 抗アレルギー薬・抗炎症薬・解熱鎮痛薬・痛風治療薬 7. 第7章 心臓・血管・血液系に作用する薬物 8. } 第8章 呼吸器・消化器に作用する薬物 9. } 10. } 第9章 泌尿器・生殖器に作用する薬物 11. } 12. } 第10章 物質代謝に作用する薬物 13. } 14. } 第11章 外用薬・生物学的製剤 15. } 薬物中毒とその処置 16. } 第12章 漢方薬 17. } 消毒薬 18. 附章 輸液 18. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書 医学書院 新看護学3 専門基礎[3] 薬物と看護 2020 改訂</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	疾病の成り立ち	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年 1・2学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	坂東健次	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 73時間
担当者	居倉美穂	資格	医師	実務経験	有・無	時間	29 / 73時間
担当者	武田定典	資格	医師	実務経験	有・無	時間	29 / 73時間
<p>授業の目的・ねらい 疾病の原因、病理、病態、検査を系統的・科学的に理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標 1. 病理学の概要・基本的病変について理解できる。 2. 臓器別主要疾患の疾病のなりたちについて理解できる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><坂東健次> 1.～4. 第1章 疾病のなりたちと病理学 5.～7. 第2章 疾病のなりたち --- 基本的病変 8. 筆記試験・まとめ</p> <p><居倉美穂> 第3章 おもな疾病のなりたち 1.～3. A 呼吸器疾患 4.～6. B 循環器疾患 7.～9. C 消化器疾患 10.～12. D 血液・造血器疾患 13.～14. E 内分泌疾患 15. 筆記試験・まとめ</p> <p><武田定典> 第3章 おもな疾病のなりたち 1.～2. F 脳・神経疾患 3.～4. G 運動器の疾患 5.～6. H 腎・尿路疾患 7.～9. I 女性生殖器・乳腺疾患 10.～11. J 皮膚疾患 12.～13. K 感覚器の疾患 14. L 膠原病 15. 筆記試験・まとめ</p>							
<p>教科書 医学書院 新看護学2 専門基礎[2] 疾病のなりたち 2020</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法 出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	感染と予防	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			1年 2学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	徳永英幸	資格	食品衛生監視員 任用資格	実務 経験	有・無	時間	31 / 35時間
担当者	馬木和則	資格	臨床検査技師	実務 経験	有・無	時間	4 / 36時間
<p>授業の目的・ねらい 微生物と感染の関係と対処法について理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の基礎的知識、微生物感染のしくみと予防に関する知識を得ることができる。 2. 細菌、ウイルス、真菌、原虫類の特性、疾患とその治療が理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><徳永英幸></p> <p>第1章 微生物の基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. A 微生物学の歩み 2. B 微生物の種類 3. C 感染と発病 4. D 免疫 5. E 感染症の予防 6. F 病原微生物と化学療法 <p>第2章 細菌</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. A 細菌の種類と特徴 8. B おもな病原ウイルス <p>第3章 ウイルス</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. } A ウイルスの種類と特徴 10. } 11. } B おもな病原ウイルス 12. } <p>第4章 真菌</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. A 真菌の種類と特徴 14. B 真菌感染症 <p>第5章 原虫類</p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 第5章 原虫類 16. 筆記試験・まとめ <p><馬木和則></p> <p>特論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1章 臨床検査と看護 2. 第2章 臨床検査とその介助法 2. 臨床検査センター 見学 							
<p>教科書</p> <p>医学書院 新看護学2 専門基礎[2] 感染と予防 2020</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護と倫理	必修・選択		授業形態			開講時期	
				講義			1年	2学期
区分	専門基礎科目					2年	1・2学期	
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	10	35時間
担当者	黒川幸子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	25	35時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>人間の尊厳を基盤にした看護の専門職業人として、良識ある判断と行動ができる倫理観を養う。</p>								
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者として、倫理について学ぶことの意義と必要性を理解することができる。 2. 生命倫理学の立場から、基盤となる理論や今日問われているさまざまな課題が理解できる。 3. 日々の実践において直面することの多い具体的な事例から、倫理的な課題とその解決策を考えることができる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><眞鍋誠子> 1年次</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 第1章 看護職者と倫理 2. } 看護概論 3. } 第6章 職業としての看護 B. 看護の倫理 4. } 5. 終講試験・まとめ <p><黒川幸子> 2年次</p> <p>看護と倫理を学ぶにあたって</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. } 2. } 3. } 4. } 5. } 6. } 7. } 8. } 9. } 10. } 11. } 12. } 13. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>医学書院 新看護学4 専門基礎[4] 看護と倫理 2020</p> <p>医学書院 新看護学6 専門基礎[1] 看護概論 2020</p>								
<p>参考書</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>								

科目名	患者の心理	必修・選択		授業形態		開講時期	
				講義		2年 1・2学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	片山養子	資格	養護教諭	実務経験	有・無	時間	26 / 35時間
担当者	山内 幹	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	11 / 35時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>患者との人間関係を築くために、健康・疾病・障害の心理学的基礎を学び、患者の心の動きや行動について考える。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療現場における患者、医療従事者の心理の基礎について理解できる。 2. 対象別にみた患者の心理的特徴とその対応について理解できる。 3. 患者の心理を理解するための基礎知識を理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><片山養子></p> <ol style="list-style-type: none"> 1.～8. 第1章 保健医療場面の心理 9.～12. 第3章 患者の心理を理解するための基礎 13. 筆記試験・まとめ <p><山内 幹></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の心理を学ぶにあたって 2.～5. 第2章 対象別にみた患者の心理 6 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>医学書院 新看護学4 専門基礎[4] 患者の心理 2020</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	保健医療福祉のしくみ	必修・選択	授業形態			開講時期	
区分	専門基礎科目		講義			2年 1学期	
担当者	近藤 稔	資格	社会福祉士	実務経験	有・無	時間	17 / 41時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象の社会的背景を理解し看護を実践できるよう、わが国の保健、医療、福祉の制度について理解する。</p>							
<p>生徒の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療のしくみを学ぶ意義が理解できる。 2. 公衆衛生と保健のしくみについて理解できる。 3. 医療のしくみについて理解できる。 4. 社会保障と社会福祉のしくみについて理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1章 健康と保健・医療・福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1. A 健康とは 2. B 健康をまもるしくみ C 生活をまもるしくみ 第2章 公衆衛生と保健のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 3. A 公衆衛生・保健とは B 人口と衛生・健康の指標 4. C 保健活動 D 環境と食品衛生 感染症の対策 第3章 医療のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 5. A 医療とは B 医療を提供するしくみ 6. C 医療を保障するしくみ D 国民医療費の動向 第4章 社会保障と社会福祉のしくみ <ol style="list-style-type: none"> 7. A 社会保障・社会福祉の概念 B 社会保障の歴史 C わが国の社会保障制度 8. D 社会保険 E 公的秩序 F 社会福祉 9. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>医学書院 新看護学5 専門基礎[5] 保健医療福祉のしくみ他 2020 改訂</p>							
<p>参考書</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	看護と法律	必修・選択	授業形態			開講時期	
			講義			2年 1・2学期	
区分	専門基礎科目						
担当者	瀬野哲郎	資格		実務経験	有・無	時間	19 / 41時間
担当者	田淵正実	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	5 / 41時間

授業の目的・ねらい
看護職に関わる各種関係法規の内容を理解する。

生徒の到達目標

1. 看護に携わる者にとって最も重要な法である保健師助産師看護師法から、医事法、保健衛生法、薬務法、環境衛生法・環境法、社会福祉法、福祉・生活・社会基盤に関する法の順に各関係法令について概要を知り、看護師の活動の根拠となる保健師助産師看護師法について理解できる。

授業概要（授業計画）

<田淵正実>

第1章 看護関係の法律を学ぶにあたって

1. A 法とはなにか
B 看護職の活動に必要な衛生法
2. C 看護業務に関係する法
第2章 看護職のための法健康と保健・医療・福祉
A 保健師助産師看護師法
B 看護師等の人材確保の促進に関する法律
3. 筆記試験・まとめ

<瀬野哲郎>

第3章 医事法

1. A 医師法・医療法
B 医療関係資格法
2. C 保健福祉関係資格法
D 医療を支える法

第4章 保健衛生法

3. A 保健衛生の基盤となる法
B 分野別の保健法
4. C 感染症に関する法
D 食品の衛生等に関する法

第5章 薬務法

5. A 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
B 人等の組織の一部を用いた医療関係法
6. C 薬害被害者の救済等
D 麻薬・毒物・劇物に関する法

第6章 環境衛生法 環境法

7. 生活環境・環境衛生営業に関する法
環境法

第7章 社会保険法

8. 医療保険に関する法
介護保険法
年金・手当法

第8章 福祉・生活・社会基盤に関する法

9. A 福祉の基盤に関する法
B 分野別の福祉に関する法
C 労働法
D 社会基盤を整備する法

10. 筆記試験・まとめ

教科書

医学書院 新看護学5 専門基礎[5] 看護と法律 他 2020

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。